

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500111		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家		
所在地	岐阜県中津川市手賀野321番地		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvossvoCd=2191500111-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvossvoCd=2191500111-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①母体法人の組織的な研修体制が整っている。サービス管理、リスク管理、スタッフ育成について学ぶべき人材が定期的に研修を受けている。 又、新しく入った人材を育てる為の中間的な役割を担ってもらう為の研修もあり、職員の資質向上、スキルアップに欠かせない体制が整っている。</p> <p>②普段から利用者様の体調面、心理面等で変化があった場合に家族様に逐一報告をして、何事があった時でもすぐに対応していただけるような関係作りに努めている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所周辺には、住宅や小学校、公民館がある。中津川を挟んではあるが、市役所や消防署等の公的機関が多くある場所に立地している。町内のラジオ体操の会場として、事業所の駐車場を貸しており、利用者が編んだものを小学生にプレゼントするなど、交流が生まれている。地域の盆踊りにも参加するなど、事業所が地域の中で暖かく受け入れられている。法人及び事業所は、センター方式による利用者の情報、思い、特性を把握しながら日々のケアに活かしている。また、法人でキャリアパス制度を導入し、職員の成長、サービスの質の向上に向けた研修体制を構築している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を元に社会常識や社内ルールが話し合えるように常にスタッフ同士も「共に」を大切にしている。	理念は玄関や各フロア、相談室に掲示している。また、職員個々が意識できるよう、全国施設会議、支店会議、スタッフ会議、カンファレンス等、様々な会議の機会に唱和を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	相変わらず外出はできていないが、近所の幼稚園児が来設、歌の披露などの交流があった。又、月に一度施設長が地域清掃に参加している。お隣の方が柿を持ってきてくださったり、干支の飾り物を持ってきてくださる。	ホームの駐車場を町内のラジオ体操会場に提供しており、地域の交流拠点にもなっている。その際に、編み物が得意な利用者が小学生に作品をプレゼントするなど、交流が生まれている。自治会の盆踊りなどにも参加している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から対面での運営推進会議を再開する事が出来、直接施設の状況をお伝えする事が出来た。	すべての家族に運営推進会議案内と併せて、利用者の写真も掲載した「運営推進だより」を送り、現状報告を行っている。また、会議には自治会や民生委員の参加もあり、意見交換がなされている。	対面での運営推進会議を再開している。出来得るならば、意見交換の詳細を記述した議事録とすることで、活動内容等も分り易く、次回への参加促しに繋がるのではと思われる。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナが5類になり、市職員・民生委員の方に運営推進会議に参加していただいた。又、介護相談員の方にも来設いただいた。	運営推進会議には行政の参加があり、運営に関する助言を得ている。高齢福祉課からは、地域のケアマネ部会への案内などがメールで届いている。県から新型コロナウイルス検査キットが支給され、定期的に検査を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの経歴年数にもバラツキがある為、理解の差が否めない。そのためにカンファレンス・スタッフ会議の場で定期的に話し合いをする様にしている。	法人全体で、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。定期的に行うカンファレンスにおいても、スピーチロックやドラックロックなどについて学び、職員間で共有している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな事でも利用者様の変化を見逃さない様に記録に残して、職員間で共有している。動画視聴での学習もしている。	虐待防止委員会については、身体拘束廃止委員会と併せて開催している。動画視聴による研修を行うことで、職員が自分の都合の良い時間で学ぶことができるようになっている。	虐待防止委員会は、身体拘束廃止委員会と併せて同時開催している。ホームとしても重要性を理解しているが、議事録はひとつになっている。介護保険制度改正に伴い、記録を分離することが望ましい。

岐阜県 グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議で職員に伝える機会を作っていきたいと思っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面と口頭で細かく丁寧に説明している。入居後も問い合わせがあった場合には説明させていただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の再開によりご家族の意見・要望を聞ける様になり、ケアプランの説明にも来設いただいて、その内容を職員にも承知している。	毎月、利用者のベストショットと併せて、月次報告書を家族へ送り、隔月で運営だよりと会議の案内も送付している。ケアプランについては、来訪の際や電話などで意見を聞き取っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	検討事項欄への記入を促すと共に管理者が代表者に適宜職員の意見、提案を伝えるようにしている。	職員の提案により、特定技能実習生が漢字を覚えやすいように、棚に記載された漢字表記にひらがなを加えるなど工夫している。職員代表が1年に1度、法人本部に直接意見を伝えられる仕組みがある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員への年度始めの自己申告書記入を依頼。内容を代表者、管理者が熟読後2段階コメントし、中間フォロー、最終フォローを経て職員の意識向上に繋がる方向へ持っている様努力をしている。	職員の休憩場所が確保されている。現在、人員確保が難しく、管理者や看護師、課長が現場に入る場合もあるが、有給は取れている。会社独自のアプリがあり、福利厚生サービスが受けられる利点もある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でお茶の水研修視聴研修制度の整備をしてもらっている。法人外で研修を受ける機会はあまり設けられないが、市の虐待防止研修等には参加するようにしている。	キャリアパス制度が確立されており、年間を通じて研修体系が構築されている。また、職員が都合の良い時間に受講できるよう動画視聴を活用した研修実施の仕組みが整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナが5類移行の為、GH部会再開され活発な意見交換が来ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の特性を良く知り、自分の親だったらどうするか等を考え、安心して過ごしていただけるようにと努力している。誕生会を開き寄り添う工夫もしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良い事、悪い事含めて、職員がお互いに何故こうなっているのかを話し合うようにしている。日々アセスメントに取り組みニーズをキャッチするアンテナを立てている。	職員は、入居前の事前面談及びケアマネジャーから利用者の情報を得たり、家族からも情報を聞いている。センター方式による「24時間生活変化シート」に、日々の本人の発言を記載し思いや意向の把握に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施、ケアプラン更新時まで課題提出、精査し職員の意見をまとめた上でより本人様が安心して暮らせる介護計画を作成している。本人と家族の意向、ニーズを確認している。	ケアマネジャーが、利用者それぞれの状況に応じて期間を定め、集中的に職員全体でモニタリング評価を行い、次のプランへ反映させている。本人・家族の思いを加え、作成されたプランを職員間で共有し日々のケアに活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式24時間生活変化シート(D-4)使用し、気づきや工夫を記入すると共に再度申し送り、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かす事が来ている。	業務日誌や個別記録なども、センター方式のシートを活かしている。これらは手書きで記載し、必要な箇所を転記しながら情報を整理している。整理された情報をカンファレンス時に活用している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チーム(ご利用者、ご家族、医師、職員)で都度情報共有、支援できるようにしている。	専門医への受診の際に家族が送迎できない場合は、通院介助代行として職員が代わりに病院に付き添っている。訪問理美容師による散髪は希望者が利用している。実家が喫茶店を営んでいる職員がおり、利用者は本格的コーヒーの味を楽しんでいる。	

岐阜県 グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りに読んでいただいたり、幼稚園児が歌をうたいに来設する機会があった。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、引き続きかかりつけ医で受診するのか、協力医に変更するのかの選択を家族様や本人様に決めていただいている。協力医に変更の場合はかかりつけ医に本人様の情報をいただいている。歯科は、不具合時に往診に来てもらえるよう連携している。	契約時に医師の選択ができることを説明している。協力医による往診は月2回ある。普段は法人看護師の巡回があり、利用者の健康管理を行なっている。栄養不足の利用者には、点滴を行うなど柔軟に対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院後の受け入れ等、医療機関の退院調整部門との情報交換を行ったり、入院中にも連絡を取り合っている。病院と情報提供書の取り交わしをしている。	入院時には、ホームでの利用者の生活状況を情報提供書としてまとめ、医療機関へ提供している。退院時には、早めに退院調整室と情報交換し、退院後は、スムーズに生活が再開できるよう支援を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験はない。家族様に重度化に向けての意向や終末期はどのように希望されているのか聞き取りをしている。他のサービスの提案などを行っている。また明らかに状態が悪くなったり、入退院にて状態が変わってしまった場合、意向確認書をいただいている。	契約時に看取りを行っていないことを説明し、同意を得ている。急変時などは必要に応じて意向を確認し、支援を行っている。利用者の状態やリスクなどを書面で整理し、家族を含む関係者で検討した上で、意向確認書の署名にて支援方法を決定している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応の研修や常に注意事項等のアドバイスを受けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いのもと防災訓練を定期的に行っている。	定期的な防災訓練を実施している。様々な災害を想定をしながら、実際に利用者も避難の為の移動訓練をしている。各階にヘルメットを準備し、玄関にはAEDの設置、災害備蓄品は外の倉庫で管理をしている。BCPは事業所独自の物を作成中であり、今年度中に完成予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入らせていただく時は本人様への声掛けを徹底している。トイレ時、プライベートな空間である事をしっかり心掛け、言葉かけの内容を選んでいる。	入浴介助を行う場合は、事前に同性介助の希望を本人に確認するなど、日頃から羞恥心への配慮がなされている。法人によるコンプライアンス研修、個人情報取り扱い研修があり、全職員が受講している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床準備時、食事時、就寝時などいかなる場面でも「どちらが良いか」「どれが良いか」と自己決定を促している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様がしたい時にしたい事が出来る様、しっかり言葉を聞き、希望に添って支援している。それぞれが過ごしやすい様に考えるようにしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎のイベントでは豪華なお弁当にする。誕生日には好物を伺う等している。	ご飯と汁物は事業所で作っているが、配食サービスを利用し、野菜や調理済み食材が届いている。職員が湯煎食材にひと手間加えて、提供を行うこともある。誕生日会などでは、ちらし寿司などを提供するなど、食べる楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか摂れない方でもどうしたら飲んでいただけるか、工夫をしている。食事量、水分量の記入も随時行い、少なかったりしたらすぐに職員と共有している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来ない方には介助にて口腔ケアを行っている。 就寝前には技師を洗剤に漬けている。制度を利用して希望された方の歯科検診を実施している。	職員が声かけや誘導を行い、利用者の口腔ケアを行なっている。自分で出来る人は、職員が見守りと確認を行っている。噛み合わせなどの不具合がある場合は、歯科医の訪問を受けられるよう対応している。市のさわやか口腔検診を活用し、口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便秘が続くと意識消失される方がいらっしゃるのので特に気を付けている。失敗があると落ち込んだり、認めたくなく怒り出す方もいらっしゃるのので定期的にトイレ誘導、誘い方も工夫して失敗を減らすようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入りたいという利用者様の希望には添えていない。バイタル、体調不良にてタイミングがずれる場合もあるが入れなくても下着交換、洋服交換で清潔を保つようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、休みたいときは居室で休んでいただき、就寝前も気分が高まる事のないように、穏やかな気持ちでいられるような支援を心掛けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容一覧表を作成。新しい薬に変わったり増えたりした時は、一週間回覧で周知している。薬のセットから服薬までにトリプルチェックをしている。	薬剤情報は職員が常に確認できるよう、利用者ごとのファイルにまとめている。薬のセットは、誤配のないようフロア毎に行っている。利用者毎に管理し、投薬時は声出し確認を行いながら誤薬を防いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の出来ること、出来ないことの把握に努め、生き生きと過ごせる様に、又役割として捉えていただける様に支援している。	センター方式によって得た情報をもとに、利用者の得意な事、苦手な事を把握した上で、居室の掃除、洗濯物干し、調理の下ごしらえ等を利用者は職員と一緒にやっている。また、数字合わせのレクリエーションなども、利用者は楽しみながら行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員不足で散歩やドライブに行く余裕がない。年末年始には条件はあったがご家族と外出された方もおられた。	現在、人員不足で外出支援が難しい状況であるが、昨年5月には、ドライブを兼ねてパラを見に行ったり、年末年始には、家族と一時帰宅をしたり外出した利用者もある。天気の良い日には1階のウッドデッキでお茶を飲むなど、気分転換を図っている。	現在、人員不足で日常的な外出支援は難しい状況にある。少人数ずつや職員の外出に同行するなど、工夫をしながら外出支援の実践に期待したい。

岐阜県 グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使っていたり機会が作れなかった。分かる方は財布をそのまま持っていてほしい。今後の外出状況によっては使用できる機会を設けたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはかけてお話をしている（携帯電話保持者）。又は家族からかかってきてお話す。お手紙が送られてくる、こちらから絵手紙を送るといったやりとりをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事を行ったり、玄関に季節毎のオブジェを作成したりしている。冬場は換気をしながら暖房でなるべくフロア内の温度差がないように（トイレの扉開ける。カーテンで代用）工夫している。	室内は明るく、季節の飾りが各所に飾られている。利用者の書道作品や塗り絵等も掲示している。廊下もフロアと同じ温度が保たれ過ぎしやすい。掃除が行き届いており、整理整頓されている。階段幅は広く、介助しながらの昇降もしやすい。エレベーターも設置されている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食堂やソファでテレビを観たり、自席で新聞を読んだり、塗り絵、パズルをされ思い思いに過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物に囲まれて、本人が安心、リラックスして過ごせるように使い慣れた物、なじみの物を持ってきていただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に矢印でトイレと書いた紙を設置したり、利用者様の動線に物を置かない、歩行器の設置場所を決める等、利用者様目線重視で工夫をしている。利用者様の居室にそれぞれの名前を書いたカードをつけて分かりやすいようにしている。		